

## 令和 4 年度 特別の教育課程の編成の方針等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
戸田市立美谷本小学校	戸田市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで小学校第 3・4 学年において「総合的な学習の時間」を年間 35 時間削減した「英語活動」を設定してきた。また、第 1・2 学年でも「英語活動」を学校教育法施行規則第 51 条に定められる授業時数以外で年間 20 時間程度実施し、成果を上げてきた。

新学習指導要領の完全実施を見据え、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ① 小学校第 3・4 学年において、現行の 35 時間実施している英語活動に、総合的な学習の時間を年間 35 時間削減し、35 時間を加えた英語活動を実施する。
- ② 本市の研究組織である戸田市英語教育研究推進委員会は、①の時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

## (3) 特例の適用開始日

平成 15 年 4 月 1 日 特例の適用開始  
 平成 21 年 4 月 1 日 変更  
 令和 2 年 4 月 1 日 変更

## (4) 取組の期間

令和 12 年 3 月 31 日まで

## 2. 特別の教育課程の実施状況

- ・ 小学校 3・4 年生において「総合的な学習の時間」を年間 35 時間削減し、その時間を英語活動として実施した。(週 1 回の 45 分授業と週 3 回の 15 分モジュール授業)
- ・ 45 分授業とモジュール授業がつながる単元構成を工夫した。
- ・ 45 分授業では A L T と連携し、「ふれる・なれる・親しむ」という流れで言語材料に十分慣れさせ、コミュニケーション活動を行うことで自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・ 校内研修を年 2 回実施し、英語力や英語指導力の向上に努めた。
- ・ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、戸田市英語教育推進委員会が開発した「英語教育指導用ルーブリック」を活用し、校内研修を行った。
- ・ 戸田市英語教育推進委員会が開発した CAN-DO リスト改訂版を活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。
- ・ 授業参観、ホームページや Facebook 等を活用して、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
- ・ 保護者会や学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。

### 3. 実施の効果及び課題

本校ではALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの本物の英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化にふれたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育てている。

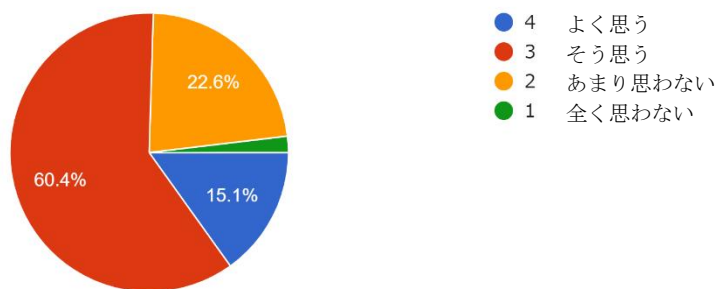
また、学年末に実施したALTと一対一でのスピーキングテストでは、3・4年生の全員が問いかけに対して英語を使って反応を返そうとし、9割以上は積極的にコミュニケーションを図れていた。英語活動で慣れ親しんだ言葉や表現を活用して、自己開示・自己発揮できる児童が増えており、グローバル社会で求められるコミュニケーション能力が着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。

一方で、発音や語順を正しく使おうとするあまり慎重になってしまう児童や、苦手意識をもって消極的になってしまう児童もいる。英語でのコミュニケーション活動や英語で自己表現することの楽しさを通して、英語活動に慣れ親しむことができるよう引き続き支援していく。

また、保護者の皆様に協力いただいたアンケートの結果が以下である。

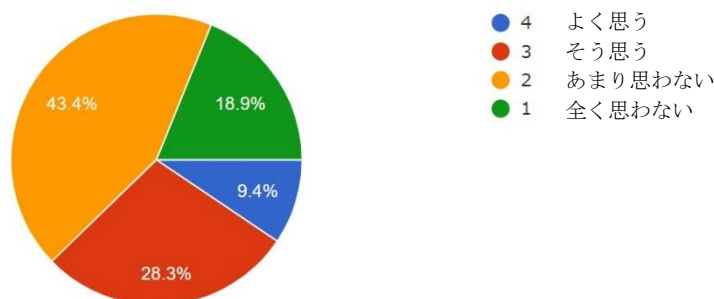
(1) 本校は積極的に英語活動を推進している。

53件の回答



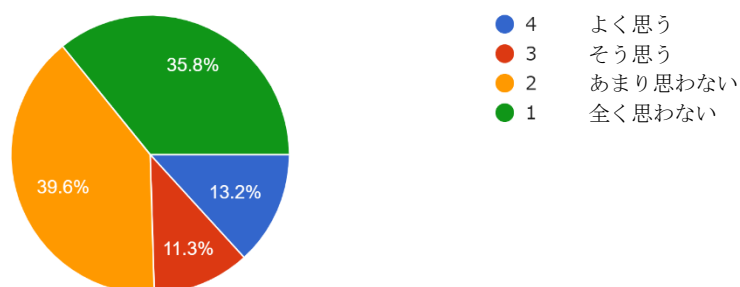
(2) お子様は、学校の英語活動の様子について、話したりしている。

53件の回答



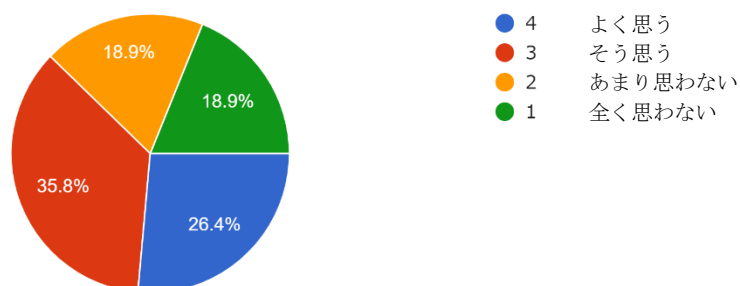
(3) お子様は、ご家庭で時々英語を使って話そうとしている。

53 件の回答



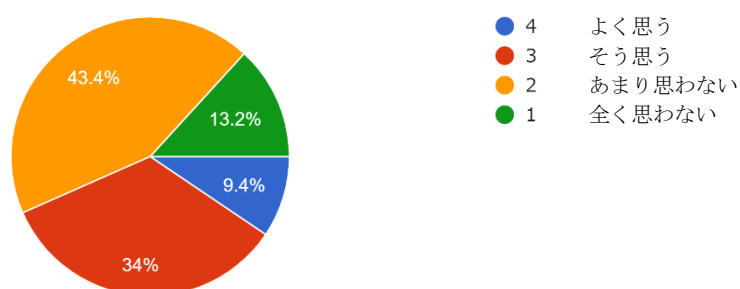
(4) お子様は、日本や外国の文化に興味・関心を示している。

53 件の回答



(5) 本校の英語活動は、お子様のコミュニケーション能力の育成に役立っている。

53 件の回答



これらの結果から、コミュニケーション能力の育成に役立ったと感じる保護者の方が多い。一方で、家庭で英語を話す機会が少ないことや、日本や外国の文化に興味・関心をもつことが課題となっている。

課題を踏まえて、戸田市英語教育推進委員会で作成したブックレットを活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていく。また、家庭学習に英語を取り入れたり、日本や外国の文化に興味・関心がもてるようなALTの活用をしたりし、英語を通じたコミュニケーション教育を推進していく。